



# 陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和40年4月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で66年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

〈私の見た天理教〉

## 天理市の印象

——「帰る」という言葉が

実感として響いてくる懐かしい土地——

船田亨二

(作新学院院长・法学博士 昭和四十年当時)

### 自分の町

天理大学で法学の集中講義をするため、私は、毎年夏になると、おちばに帰らせていただいている。こんな言い方をするのは、いかにも僭越(せんごつ)のような気もするが、「帰る」という言葉は天理市に足を踏み入れたときの自分の気持ちによく合うように思われる。

私は、別にこの町に生まれて育ったわけでもないし、そんなに長い間滞在したことがあるといってもない。講義のために数日間滞在しても、教室でのおしゃべりに疲れ、講義の準備に追われて、宿舍と大学の間の往復のついでに近所を歩きまわるのが関の山である。

そして、町の外観についていえば、かつては教祖七十年祭を記念して、いろいろな建設事業が行われ、今はまた、八十年祭を目指して、いっそう大規模な建設事業が進められていて、町のいたるところが掘り返され、方々でやかましい槌音が響いている。町全体が、必ずしも整って静かに横たわっているというのではない。

また、町の人たちも、私という一人の人間がやって来ようとして来まいと、そんなことは関係なく、彼らの暮らしをいとなんでいるのであり、そしてそれは当然のことなのである。

それにもかかわらず、私は、この町のかもし出す空気に、

自分の方から親しみを覚え、自分の町に帰って来たというような気持ちになる。

実は、私は、自分がそのような気持ちになることについて、とくに何故なのかというように、そのことを反省してみたこともない。

しかし、少し注意してあたりを見まわすと、この町に住みついていてる人たちがばかりでなく、各地から集まってくる多くの信者たちの行動が、細かい点にいたるまで、お道の教えを実行に移すという方向をとっていることに気がつく。

しかも、その行動は、必ずしも意識的に反省を加えた上でのものではなくて、多くの場合に、きわめて自然な、なだらかな、身についたものである。人々はそうした行動に出ることを当然のこととして、いるようであり、あるいは、むしろ、そうすることに喜びを感じているように見られる。

ことに、進められているいろいろな建設事業に携わっている人たちは、その携わる事業の完成のために、ひたすらに全力を尽くすことを喜びとして、いるように見られる。

部分的に見れば、続けられている建設事業には、かなり雑然としてるところもあるけれども、すべては同じような空気に包まれて進んでいる。

そして、そのような行動を通じて現われる多くの人々の心の香りが、いつも磨きかけたように清められたおちばを中心にして、この町全体をおおっているように思われるのである。

### バチカンの印象

ヨーロッパでは、バチカンのように、ローマ教皇の宮殿を中心に、実に立派な宗教都市ができあがっている。しかし、それはあまりにも壮麗で整った外観をもっていて、訪れる人の心を威圧せずにはおかない。また、そこに働いている人たちは、すでに完成された一つの型の中で、それから少しでも踏みはずすことのないようにと、用心深く行動しているように思われてならない。

私は、かつて、ここの図書館に用事があったこの都市を訪れ、係りの人たちの親切な取り扱ひを受けて、ひどく恐縮もし感謝もしたことがある。

初版 1 万部完売御礼

増刷出来

# マンガ おびや許し



改訂版

「おびや許し」をいただく方に。  
においがけに。

作画：金巻とよじ 脚本：山岡美秀  
A5 判 32 頁 定価 200 円 + 税

けれども、この都市全体について、ただ、その歴史の古さや偉大な外観に感心し、眼を見張るに忙しかったような記憶をもっているに過ぎない。  
また、私は、かなり長い間東京に住みついている。しかし、私は、東京の町全体について、たいして親しみももつには至っておらず、旅行から帰ったときなどにも、自分の家に帰り着いて初めて、帰りに着いたと思うに過ぎない。  
生まれ育った故郷についても、自分の生家やその近くの風物に接して、かつての自分のことを思い出し、その思い出を懐かしんでいるのであって、故郷の町全体について、親しみとか愛情を抱いている

と、いつてしまうわけにもいかない。  
これに対して、天理市は、その外観が必ずしも整うまでには至っておらず、かつ、訪れるたびに、かなり変わっている。しかし、それだけに、未来の完成を目指して進む若若しい力にみなぎっているように見える。  
しかも、その力は、決して人を圧伏<sup>あぐ</sup>するようなものではなくて、自分もその力の中に加わり、これと一緒に進もうとする気持ちをおこさせるような、和やかなものである。  
そして、そのようなやさしさを作り出しているものは、すべての人たちの心構えであ

り、その自然な発露<sup>はつろ</sup>である。  
私は、このようにして作られている天理市の空気に触れるたびに、これに親しみを覚え、町全体について、自分の故郷のような感じを抱くのである。

Facebook で最新情報をチェック!  
<https://www.facebook.com/yotokusha>

## 『陽気』 定期購読

**お** 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。  
毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。  
(例：4月号は3月20日)

定期購読料金 1 年分  
3,420 円 (送料込)



## ◆新刊・発売中◆

# 新・樺太伝道物語

—サハリンへ渡った伝道者たち—

天理教北海道教務支庁編  
養徳社刊

極寒の地・樺太(サハリン)には終戦前まで五十万所の教会があった  
戦後七十年 新たに掘り起こした  
樺太伝道の歴史と布教師たちの信仰



旧樺太・豊原駅(上)と大通り(下)  
かつて樺太には40万人の日本人が住んでいた

A5 判・224 頁・定価=1,200 円 + 税

購読に関する問合せ先  
☎ 0120-920-398 養徳社 業務窓

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。  
<書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を送らせて頂きます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部